

置賜森林管理署	
タ イ ト ル	ナラ枯れ対策現地研修会
実 施 年 月 日	平成24年6月8日(金)
実 施 場 所	山形県南陽市小滝水林国有林202ゆ林小班
参 加 者	局署：東北森林管理局、山形森林管理署、最上支署、 置賜森林管理署 19名 外部：山形県置賜総合支庁森林整備課、山形県森林研究研修センター、 (独)森林総合研究所森林農地整備センター山形水源林整備事務所、 米沢市、南陽市、長井市、高島町、白鷹町、小国町、 小国町森林組合、西置賜ふるさと森林組合、 米沢地方森林組合 21名 計 40名
【取組の目的・概要】 平成17年度に、当署管内でナラ枯れ被害が確認されて以来、置賜森林管理署、山形県森林研究研修センター、山形県置賜総合支庁、小国町等が連携して、小国町内の民有林と国有林において、先駆的に、被害状況の把握、防除対策の検討・調整、くん蒸薬剤注入等による駆除、ナラ枯れ予防剤の樹幹注入、面的防除実証試験（おとり木やおとり丸太への誘引合成フェロモン剤設置等）、危険木の伐倒、道路等インフラ施設管理者への危険の周知等の取組を推進している。 このような中で、小国町内のナラ枯れ被害は減少しているものの、被害が東側の市町に拡大しており、これらの市町における民有林と国有林が連携したナラ枯れ対策の推進が重要となっている。 このため、これまでの取組成果を普及させるとともに、民国連携した防除対策等の一層の推進を目的に現地研修会を開催したものである。	
【取組の成果】 小国町における民有林と国有林の連携によるナラ枯れ被害対策の取組を紹介するとともに、山形県森林研究研修センター齊藤正一森林環境部長から面的防除実証試験のひとつである「おとり木トラップ法によるカシノナガキクイムシの大量誘引実証試験」の考え方や留意点などの説明を受けた。 その後、参加者がおとり木設置の体験実習として、約0.1haの試験地内のナラ30本にナラ菌の殺菌剤を注入するとともに、そのうち4本にカシノナガキクイムシを誘引する合成フェロモンを各2個とエタノールチューブ各1個をつるしておとり木を設置した。 なお、殺菌剤は、通常のもの外、作業効率等を高めるために開発が進められている高濃度殺菌剤の注入も体験した。 体験実習後、置賜総合支庁からの民有林ナラ枯れ被害対策の説明、全般的な意見交換を行ったが、ナラ枯れ対策が重要となっている中で、おとり木設置等を体験したことで活発な意見交換がなされ、関係者の連携が深まった。	
【出された意見】 ・おとり木トラップ法等の考え方やおとり木設置時の留意点が良くわかった ・高濃度殺菌剤は作業効率等が非常に良いので、早く実用化して欲しい ・沼沢面的防除実証試験地(国有林60い林小班(小国町))も見学してみたい等の意見が出された。	
【今後の課題】 置賜地方全体で、民有林と国有林が連携したナラ枯れ対策の一層の推進を図る必要がある。	



民国連携によるナラ枯れ対策の説明



試験地の説明



おとり木等の説明
※黄色テープにつるしてあるものが「合成フェロモン」



ドリル穿孔後に殺菌剤注入体験
※下部の白いものが、「殺菌剤」(通常のもの)



おとり丸太